

編集後記

筆者の記憶では、2000年頃までは、胆膵系の処置具はCook社とMicrovasive社（後のBoston Scientific社）が世界の2強であり、彼らが抱える欧米の巨匠たちの意見を中心として、新しい処置具は開発されていた。当時の日本にも数社の処置具メーカーがあったが、開発能力という点ではそれほど強くなかったと記憶している。そして、外資系である2強のメーカーには、残念ながら日本人からの意見はあまり取り上げられず、忸怩たる思いをしていたことを思い出す。

さて、今回のPlanningに際して御尽力いただいたCo-plannerの安田一朗先生、良沢昭銘先生、Coordinatorの糸井隆夫先生に、心より感謝申し上げる。

本特集の前半は、序説1本、ERCP関連11本、EUS関連4本と、単純な処置具カタログをはるかに超えた玉稿揃いとなっている。序説の安田健治朗論文では、日本の胆膵領域の先駆者の一人であるKen Yasudaならではの視点が述べられている。現在は、他目的で作られたものを技術でカバーしながら流用するのではなく、状態に適した処置具を適切に選択することが求められる新時代に突入したことがよくわかる。土井論文のガイドワイヤのAAR、GFIについては、なるほど、そういうことか、と感動した。中原論文の胆嚢用ステントは、超高齢者における胆嚢炎治療の選択肢として大変参考になる。藤澤論文では、胆道用金属ステントの特徴が幅広く取り上げられており、熟読の後に、ステント選択時の参考にしてもらいたい。

また、後半は、新企画として、「私のミニマルセットはこれ!」という、恐らく読者が（もちろん筆者も）一番見たかったものを集めることが出来たのは、Plannerとして至極の喜びである。8つのシナリオに各々2名の執筆者、計16本の論文を依頼したが、読みながらホントに心がワクワクした。前述の安田健治朗論文のいう「弘法は筆を選ば」際でも、全ての処置具を置くことは非現実的であり、使用頻度の高いものとその根拠を考えながら、処置具のセッティングはされていくべきである。各論文を是非とも熟読いただいで、各々の施設状況や嗜好にマッチした「ミニマルセット」を確立していただきたい。

余談になるが、海外のライブに行くと、日本で使用可能な胆膵処置具、特に、interventional EUS関連の処置具の豊富さを再確認するとともに、無い場合の不自由さをしみじみと感じる。例えば、EUS-HGSの場合に、穿刺後は楽々とRENバルーンやTornus ESでESCRを拡張し、ITステントやSpring stopperを簡単に留置できる日本の現状は、海外、特にアジアの国々からは、羨望のまなざしで見られていることを付け加えておく。いま、日本で使える胆膵系の処置具は非常にホットであり、まだまだ新しいものが出てくることを期待している!

（国立病院機構静岡医療センター消化器内科
松田浩二）

「消化器内視鏡」編集委員会

ENDOSCOPIA DIGESTIVA Editorial Board

主 幹

貝 瀬 満 有馬美和子 檜 田 博 史 今 枝 博 之
斎 藤 豊

委 員

阿 部 展 次 石 田 和 之 糸 井 隆 夫 大 塚 和 朗
加 藤 元 彦 河 合 隆 川 田 研 郎 河 内 洋
栗 林 志 行 小 林 清 典 下 田 将 之 玉 井 尚 人
根 本 哲 生 平 澤 俊 明 藤 島 史 喜 布 袋 屋 修
松 田 浩 二 三 澤 将 史 安 田 一 朗 山 本 博 徳
良 沢 昭 銘

名誉主幹

酒 井 義 浩 田 中 三 千 雄 幕 内 博 康 熊 井 浩 一 郎
柿 信 廣* 星 原 芳 雄* 杉 山 政 則* 岩 男 泰*
赤 松 泰 次*

名誉委員

荒 川 哲 男 池 上 雅 博 池 田 昌 弘 乾 和 郎
大 倉 康 男 大 竹 寛 雄 沖 田 極 小 原 勝 敏*
勝 又 伴 栄 加 藤 洋 桑 原 紀 之 桑 山 肇
佐 竹 儀 治 嶋 尾 仁 竹 下 公 矢 田 中 雅 夫
長 野 正 裕 長 谷 部 修 原 澤 茂 原 田 一 道
平 田 信 人 藤 井 隆 広 藤 田 直 孝* 藤 盛 孝 博
安 田 健 治 朗* 矢 野 右 人

*: シニアアドバイザー

消化器内視鏡

第37巻 第10号(通巻第446号)

2025年10月25日発行(毎月1回25日発行)

定価3,520円(本体3,200円+税10%)

2026年年間予約購読料

① 2026年1月号～2026年12月号+増刊号:

定価55,000円(本体50,000円+税10%)

② 2026年4月号～2027年3月号+増刊号:

定価55,330円(本体50,300円+税10%)

※前金予約購入に限り送料無料。

※消費税率変更の場合、上記定価は税率の差額分変更になります。

編集———消化器内視鏡編集委員会

発行———株式会社 東京医学社

〒112-0006 東京都文京区小日向4-5-16

編集部 TEL 03-5810-1648 FAX 03-5810-1649

営業部 TEL 03-5810-1628 FAX 03-5810-1629

E-mail: naishikyo@tokyo-igakusha.co.jp

・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は株式会社東京医学社が保有します。

・[JCOPY] <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、一般出版者団法人著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

Published by TOKYO IGAKUSHA Ltd. Printed in Japan ©2025

広告申込所: 株文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-1 TEL03-3814-8541

株メディカ・アド 〒105-0013 東京都港区浜松町1-12-9 TEL03-5776-1853

株文京メディカル 〒113-0033 東京都文京区本郷5-24-6 TEL03-3817-8036